

直方ミニバスケットボールクラブだより

共育コラム

これからの時代を生きぬいていく子どもたちに必要力は・・・

右記は、21世紀型の学力として、ある教育研究団体で提起しているものです。ちょっとことばが難しいですが、変化する社会をふまえて、とても重要な内容と考えています。「学力」をこんな意味合いでとらえられたこと、あるでしょうか。

<学力とは…>

- 多様な価値観や文化を有す異質な集団の中でも交流し得る力
- 自己との対話を重ね、自律的に活動する力
- 他者とのかかわりの中で、相互に生かし合う力

現在の高校受験のシステムは、社会の変化とともに大きく変わってきています。私はもちろんですが、保護者のみなさんが生徒だった時とも違ってきます。単なる知識だけではないところを評価するための模索が続けられています。その変化には課題もとりざたされていますが、子どもたちはその変化する受験システムに直面していくわけです。少子化社会を迎えている今、高校にとっても大学にとっても、存続が危ぶまれています。昔は企業間で行われ問題になっていた青田買いのような状況が、受験システムを変えながら、高校や大学で起き始めています。現在の小学生が、高校、大学を受験するまでには、まだ相当な変化が予想されます。つまり、子どもたちは、私たちおとなが経験したことのない、違うしくみのなかで、変化に対応していかなければならないということです。

先日、直方クラブの卒部生(中学3年)が、「みんな進学先が決まりました」と言って、報告に来てくれました。それぞれが、自分に合った高校を自分で選び、受験して進学先を決めていました。“自分で考え判断し行動する”これは、直方クラブが活動のモットーにしていることですが、変化する社会においてとても重要な力になっていきます。もちろん、一人で問題を抱え込み、考え込んでひとりよがり判断していくことではありません。迷うこと、わからないことがあれば、だれかに相談をし、アドバイスを聴きながら最終的には自分で決断して実行する、そういう力(主体性)です。この主体性は、中学生になって急に身につくものではありません。小学生から、もっと言えば、乳幼児期から、小さな場面で子どもの主体性を引き出し、可能な限り尊重してあげるかかわりを積み重ねていくことによって少しずつ身につきます。

しかし、実は、このかかわりは、親にとっても、教師にとっても、クラブ指導者にとっても、なかなか難しく、うまくいってないことも少なくありません。おとなは、経験に基づいて少し先が読めてしまうので、失敗することが読めれば、つい、先に口を出してしまう、指導してしまうんですね。そうすると、子どもにとっては、自分の行動を決めるのが、いつもおとなになってしまいます。それが常になると、子どもは、自分のことを自分で決める力を身につけることができず、常におとなの言ったことに従う習慣が身についてしまい、何事に対しても待ちの姿勢になります。そのうち自分のしたいことをもつこともなくなり、常に、〇〇がこう言ったからと、誰かに従う姿勢に終始し、自分の主張(意見)がなくなります。これからの時代を自立して生きぬいていくことができなくなります。「失敗もいい経験、学びになる」くらいのことを思い、見守り・励まし・応援してあげることが重要です。子どもたちは、急速に進む社会変化のなかで、おとなが経験してきたこととは違う社会を生きていきます。変化に対応しながら、自分の進路、生き方を決めていかなければなりません。だからこそ“自分で考え判断し行動する力(主体性)”が重要になってきます。